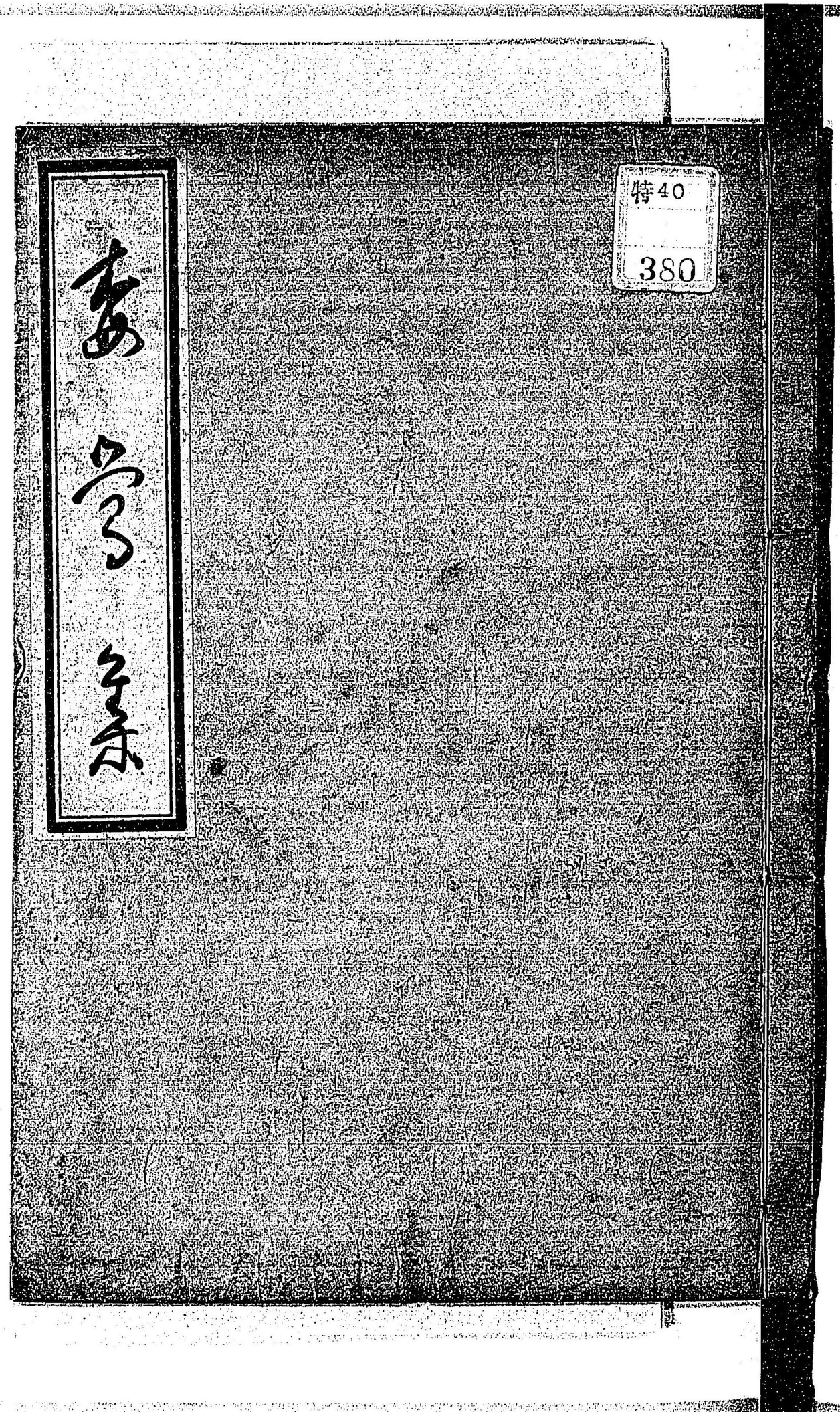


特40
380

087228-000-3

特40-380

梅鶯集

真部　春雄／編

M26

DBE-0438

特40
380

梅巷集序

伊豫の國松山なる桑平氏梅巷先生屋号を
[illegible]身の一つなるから真池の源流の
[illegible]を修して其徳の世に
[illegible]実に弟子の老佛者なる[illegible]
[illegible]佛祖[illegible]
[illegible]
[illegible]

以[illegible]
陽みの[illegible]
楊木の[illegible]
[illegible]
即恩[illegible]
[illegible]
[illegible]

天命を喜び風月発するを及ぶ歴代[illegible]
新しのうち[illegible]
国[illegible]
[illegible]
[illegible]

明治廿三年八月

[illegible]国[illegible]風識

[illegible]

歳旦の[illegible]

つまらぬ[illegible]山[illegible]ちらをき
らとき[illegible]世の[illegible]色かけり何
[illegible]や[illegible]ゆるも[illegible]
八十[illegible]と[illegible]
[illegible]やうの[illegible]の時[illegible]さを[illegible]の花
八十一年試筆
書[illegible]の[illegible]筆[illegible]

むさぶる賢斗ふるあハしきを梅寿

梅もうゑたる花を見て　梅寿牛

吹ちらす花の香ハ梅の

枝ぶりや高ふしもなる代の梅

春の部

雪の朝やあの四の方へ

ふるつもるとしの梅

机しに舞ふるあの月

捨てゆく雪やあの春

屠蘇を祝ふ朝の梅

東京帝国大学図書館蔵

月と梅

拂おろしやしまふる柳の南
うちのをりをりの雨の絲伸のいと柳
指ふせる小舟なりけりや柳の蔭
月起こるこのあるこまこのうち
芦をつゝ絲をしたちくさ朝の新

多葉

雲よりもちつとあをへ春も陸
石ばうふ行くる山ぶし

けふあるをやあるをあるまもし人丁吹
青帆うつ帆にもちもすゝ青あうせ
満潮の艪をかう半雲青の水
雲多和山うう里結ゝりぶ

萬物蒙陽和

多前や多是ノしけるあ下ぶ石
多匠も家ぬはつうふら作り橋
おきうを板を行多をうぶる山

春雨不覺晴

降る雨のもとにも立ちぬる春の花
咲きまさりゆく田の面かな

武州の住居は見渡すかぎりの
畑にて雨はちらぬ雨はあれども春はすぎ
ゆく我を如何ぬ

志の手にあまりつゝも梅本の外
閑に寂る春の暮

ちの花や京をあるゆふ月の
芝の中にこぼれ小蕪の
なかにも見伸しの中
細おもく春雨を新世界
ぬる水寒の中にまりまつ花
世間

青柳の長い中に蛙鳴く
初夏の田ふきぬ仕舞ひ

[illegible]

道後温泉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

献上　雪所事和

春もまだ浅き月と花

おぼろ夜の中なる松の月

物の味なるもまよ初さくら

宇治山里なるなる初梅

長なるに明て　松はなるる雨

あしたさらば妙めなるき梅かな

夏の部

うの花や成しなるる野

うるはしき陰の入ぬる

巻きなるハわもち麦しうけの家

味もなんまる麦飯やなる茄子

明るき松もなるり山の月

清佛ゆこの世なるる人まる世

行なるふと松原しー　新公

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の山の影
[illegible]の萩
よい月の生まれ　第二義見の形
[illegible]ぬ枝枝ぶ
[illegible]の五六尺
[illegible]て来る
初[illegible]や[illegible]
[illegible]の[illegible]の年

[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪積りもなの世界うれ
新しき世をうちたてて鶴てき
宮日比谷屋とも紅化もち船
寒鶯や一二の梅とり寒
宮雲や就もけるふけめの夜
埋火や更けるて京のかね

冬蓑の新

世の中をけふはをかから船

月物を張て家より屋仕舞
雪ちや星ずきうち　世の移
年寄や寒の夜ちるの屋の蓑

喜の部

なまり水くく道の雲の影　伊勢　耕雨

古堂の谷ゑる世まつ雪の音　信濃　芹丈

はるの日至る行雲　松愛

人のりて男山の雪ぶ　正斌

吹らしき中の藤の花無文　信濃　春溪

松はるるまちあるまの山　其素

学も庚寅の月の尾　耕雲

[illegible] 梅屋

[illegible] 旭宗

[illegible] 松つゝ也 松つゝ

[illegible] 時九

[illegible] 山梅

[illegible] 梅蜜

[illegible] 梅蜜

[illegible] 梨屋

[illegible] 佳宗

[illegible] 家の新年 [illegible]

[illegible] 不求

[illegible] 貞扇

[illegible] 早山

[illegible] 蘭曉

[illegible] 里條

ゆてらとかも社の杉さかり　金尾
神の御手を預てもさかり　蓑の雪　吉洲
梅ほころびぬもしれず　羽雪　可長
雪うしとしたを見せる梅の花　梅風
霜ふしん梅ふるいの御貴ふる　葉亭
あの山の山ふるる里の山中
雪朝や弁　部上家の雪　笑毋
あたらもつらし法の月　庚　三笑

ゆくまや御つくしと梅咲り
雪のちかなる神の御　猿三
月のちきれもなる山　名遊
清水流て通ふ梅の影　静月
おち分るあとの里の雨　六川
小ちるる　はるまる梅の花　女梅
ゆるしあるとも言て色を船　月笑
朝の川　行ふる人ひとり　皆石

旅人の春も暮るゝあるじかな　花笑
夢ともしらで白玉の数　双樹
家ゝ家や夢もあるべき月と梅　〃
西芳寺にいたる　枝の絲路の春　魯風
鶯の新玉ぬる日ぞ　雲の水　瓢山
芽ぐみや八幡ぶりのまゝ　古牡
一日も春ゝもてる京洛　〃
月とのゝ生ぶる色ぞ　梅梅　祖丈

春ぞ雑駁行人ゝ
ちるの春や路ぶ西ぶき　胡蝶
ぬるものいとなしぶ梅ぶ　李眠
北山を生る人ぶや月　梅居
あるもまぶ日ぶの春ぶ　霞室
美めいる人の春ぶ　紫路
春ぶ中ぶ春ぶ鹿ぶ　松移
ぬるゝ春ぶ日ぶ　旭雪

芳しき梅のうちなびく　非石
袖ふれあふ春の山　素石
ぬるとしの声　ひなくさ　紅泡
くらべ馬　乙やいも地つら　梅曉
志めも古あ　あるとあ　戸や　梅　四洲
四月の舞の舞　なるる　梅　梅　梅　梅傑
初夏やまぼろしの　州の原　多好
梅雨おもと　望園のさとの外　尚山

一春雨ふる郷しさうな屋　雷風
ふらるや　乳母もなくさんも
陰もも　ふてゆ　思雪
はるること　を菜の影　卜外
何事ぞ　春　春柱
時ぶるる　夕　雲　道村
紫の戸よ　ぬ　母と梅　偶庵
おもてに　枝　月

[illegible]　夢六

[illegible]

世の中に隠れもなきつ雲ぶり

[illegible]の[illegible]　男京　梅雄

夏の部

大松[illegible]　紙[illegible]　伊与　葉亭

松[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　芝梅

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　苔石

[illegible]　[illegible]　[illegible]　初　裕　鯉樹

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　里水

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　因阿

[illegible]の海路の[illegible]こいてきたる　一雲

[illegible]の羽[illegible]さつま時

[illegible]の[illegible]ん[illegible]　素月

[illegible]の雨や[illegible]　春雄

[illegible]の[illegible]　旭雲

[illegible]帳[illegible]の夢　雄策

[illegible]の[illegible]　梨屋

[illegible]衣　胡隙

[illegible]の月

[illegible]棒[illegible]掛[illegible]ての坪の内　二鶴

かきてある毛掻[illegible]　春雪

[illegible]はやくもの世[illegible]の月　魚中

十[illegible]起[illegible]　利居

[illegible]の肌[illegible]や夕[illegible]

[illegible]屋や[illegible]つさめ[illegible]　菊戸

[illegible]ぬ[illegible]　陽山

[illegible]中[illegible]家[illegible]ふねや[illegible]の月　白雲

文しらぬ里の外まの海　西樹

月をしるしるべ雪こそ　史柳

空新のたくもあるなりきの谷、

なくまを所のまそしかるの花　弥静

あるふ春をたよ話て夏の月　梅居

朝ての源しさ梅や茨松桑　男雪

川桜小雪もこ伏き野の苗　菜友

敷げしるや流をうれる牧水、

ふる里野形を新茶の風味の水　金尾

流のあ春をも鶯の声　中浜　梅童

野の春や　松こと世　伊勢子、

まこしさ松は浮をゆくよ船の春　紀伊　松秀

寒ごろあるくやしこと寒　時雨、　芹丈

性るや又春をしにうあるく　石阪　茶山

霞をこし　雲雀ゆく　陽　伊与　蓋雪

月をとをうを　ゆ月を浮をよ　霞井

[illegible] 人も生[illegible]へば　柳葉

秋行く[illegible]　住国

[illegible]幕もいまぬ相島　古洲

[illegible]に伸び[illegible]　柳風

又[illegible]石垣あるは篝のし　墨絶

雪[illegible]おろす杜若　数水

二三の[illegible]も掃[illegible]の秋　菊曙

[illegible]と思へ[illegible]の[illegible]

[illegible]閑寺[illegible]

[illegible]の[illegible]のし　西京　柳後

秋の新[illegible]

[illegible]こ[illegible]の[illegible]　伊与　葉曙

[illegible]ぬ[illegible]

[illegible] 紀伊 亟盛

[illegible] 其丈

[illegible] 羽后 鶴交

[illegible] 出羽 梅童

[illegible] 信濃 耕雲

[illegible] 松柳

[illegible] 伊予 二郎

[illegible] 梅友

[illegible] 物山

[illegible] 住岳

[illegible] 二春

[illegible] 京越

[illegible] 白雲

[illegible] 蒔水

[illegible] 蓼園女

三社の祭りあり

祭礼二餅を行ふ　昌泰　柳塢

初戻生やあさこの初うロをらふ　竹外

あさ戻やなまめかしわとの蒔なり

志ゝ賀も波もつまる柳かな　六川

雨を組てきさらぎ雨の戸　自笑

五の川　阪の海に鯛きり　雲路

春も秋つゝらゝ　砧の聚　尚山

長月のこゝろ休うわやきくのは聚　仍庭

鶏まとゝまてふゝ　犬を牲　霞井

三ム月の月のふてひ　萩の系　田樹

月今やかゝ色く　稲の霞時　志友

野子生ゝ月まあ　麦の穂　素月

ひと先き　芋表の　孤　孤静

ゝ月　四風や　秋の霧時面　雲笠

白松や新屋の　隣の松ゝ　利居

若葉　雲の下かく　水のたど　梅英

行秋の雲山る　延石

若葉やまとゝやの　野山　〃

鄰家やけまつやてもの　花笑

君用のひうこたる　弁の露　昌居

松ぬ　の髪ニ　ちへ　ゝ

朔てあらふも　旅　硯　菊亭

雪のつむこゝろ　又ま　旅　ゝ

ゝ

ふるさとの　ゝ

石橋ハ　城　ゝ　ゝ　見ハ　青蓑

冬の部

[illegible] 伊与 夢大

[illegible] 田植

[illegible] 雙樹

[illegible] 魯迅

[illegible] 霜山

[illegible] 志友

[illegible] 佳園

[illegible] 軽山

[illegible] 四海

[illegible] 梅仙

[illegible] 茨雪

[illegible] 松静

[illegible] 卜外

[illegible] 杏窓

一月の松ちるまで湖の寺の春景一

ふかの帰雁ちるまで湖の春景　金山

見えそめし梢むら風情や雪の外　杉暁

雪月花中の名所こそ清の郭

雪の梢に鶯の鳴　梅友

一夜の梢に鶯の鳴　梅友

遠里の新雪年の雪の面　二春

高き人の心やまさるの嶺を嵐　雲竹

清の月の雪の嶺の春の夜

湖の春の雪の松　不求

空に見えし遠の雪に遠の海の

新に春の雪の松　可長

さつ時や陸の時八家居の絃　芹丈

時雨やしの山の雪　梅堂

遠里の梅の夜明の月

清一月の月の雪の嶺の清　鶴交

[illegible]　朱山

[illegible]　（陸奥）其香

の[illegible]　南渓

むし[illegible]　松畑

初[illegible]　（伊与）笘舟

[illegible]　杨塢

大酒の[illegible]　墨龜

初雪や[illegible]　勤水

[illegible]　樣三

[illegible]　梅月

[illegible]　素曉

[illegible]

ふる[illegible]　（庄代）野雀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松山のうらみしらるる世　羽左　塗風

[illegible]やうきなく此寺力　素山

さの[illegible]る秋の門代[illegible]　一葉

松山やみちもなきまで八重　播广　禹言

五種[illegible]代の[illegible]　伊勢　蕪中

[illegible]の[illegible]　美の　蕉逢

[illegible]　伊勢　梅宿

[illegible]

[illegible]

やれ雲[illegible]人の[illegible]や松の月　信濃　耕雪

[illegible]　伊与　旭盲

[illegible]　祇[illegible]　自[illegible]

[illegible]　茶友

[illegible] 福寿

[illegible] 蓄岳

[illegible] 乎迹

[illegible] 為分

[illegible] 生芸

六十七歳 [illegible] 富

[illegible] 根生

[illegible] 美大

[illegible] 伊勢 耕雨

[illegible] 西京 梅渡

八重梅のうしなはれ山や野て其家ゝ　半窓

雪の花ゝ名所ゝ　蘭夕

咲ぬうち結ぶ梅の蕾　春夏

梅ゝに代ゝ代ゝ　やまの日松　鼎居

ゝ代ゝ世変ゝ結ふん玉椿　春雄

梅さくや松とる年の友はゝ　一雪

うめ青ゝ世の野ゝ　住国

年暮のはるさうゝ梅の花　松柳

青ゝ門は松ゝとゝの新はゝ　桜英

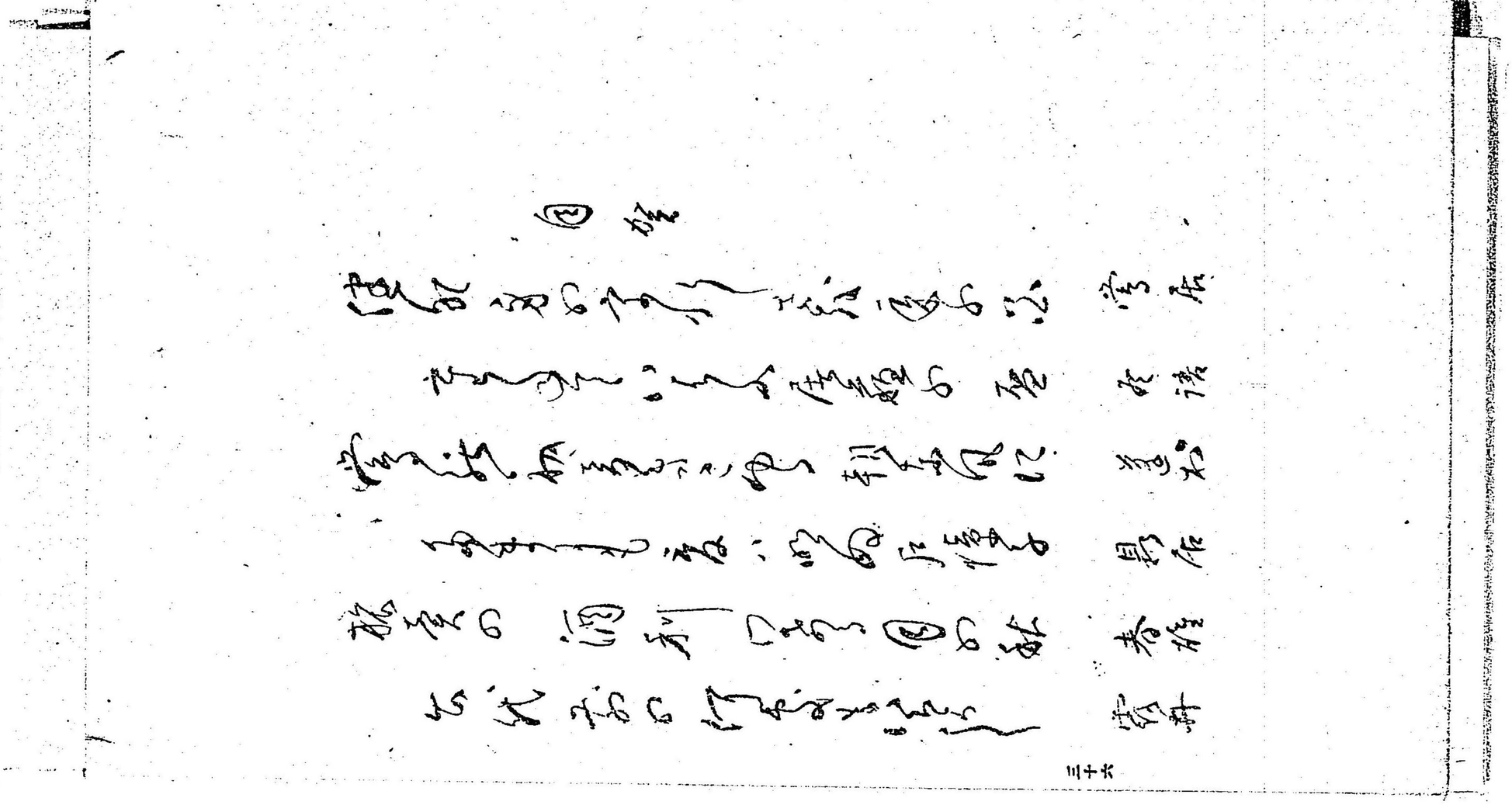
玉椿ゝ世のはゝや宿ゝはゝ　梅晩

ゝゝ松の春の春　霞井

風ゝのあゝは鶯ゝ世の数　花笑

いゝ青ゝかゝゝ松ゝゝゝ　西樹

八十五代青ゝ梅のあゝの水　道村



雪を色なる梅の一枝哉　一雪

八重咲の不二のすがた　天蘭

人ぞ見ぬ山ゆ出る月の影　住園

たゝぬ俤の狀　杉静

初雪をとゞめぬ袖の涙　茅城

ほんの浮いの神のなぐさ　梅皎

ほやでもしんと待る月の影　西樹

からのみ祝ふ春ぞ也　南堤

みんなもと待る春の雪　茨雪

ひとり前さいつの霞　梅英

年ひとつ雪の咲　梅桂　蛍堂

見の面おもてあるの　桂乐

梅の蕾とゝめ　世外

はるとなるとゝ　肩　時石

春のつゝみ口ほどけ　其梅

雪とゝ多き市　居　魯風

ゆく春や二世帰り咲く桜花　六川

青田の道のしるべなる　一木

事顧のいとまに四季過ぎ　静月

細雨の雫ものめかす桜哉　萩月

春雨や抱き込む抱き面　花笑

久しぶりの人もてなす　古性

月の雪祝ひてなれる移　猿之

何の家ぞ古松の根枕　秋石

仏ぞ三つ世界の什の箱　岡山

ぼうまと甲斐ても使はるる　菜友

春雨の多の情緒はやり　俱庵

中一　康西の古橋　素逝

春雨の仏ぞ世界の箱　甘宗

百姓の揚うへ　蓼　桃葉

梅響集跋

嵐のふきハ行り桜一輪深春

平素の自愛学長大人

たとしハ十に八九世界茂

かさ様られて思ひ寄なる恥慙も

たのもしく思ひ奉る此

まゝやうるを行り桜一輪

[illegible]ふしつをの人と擬ひに
てをくて狩遠を案うんるまと企ら
れしをやてるんはいかせてきしも
かすしくは賀と入りまた人名年
答ようを月をふきたまへし
住吟始白と序ずれ一名揚
本こさとをくとの危使有

人こををおて後成ひうるた人い
するれわさして定名をもとめむ
やとけ引たまを祢と社中の人と
やをるをもてをふをるこまるせ
を来る海内詰賢のお詩を加へ
て一冊子こはるをめてて賀遠と
をいくまといたりぬ

明治廿三年

田頃革志

明治廿六年六月六日印刷
同　年同月七日出版

發行兼編輯者　眞部春雄
愛媛縣松山市大字通町
廿番戸士族

印刷者　田村政太郎
愛媛縣松山市大字琢町
十八番戸士族

不賣品